



ストレージを管理します

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere

NetApp
September 29, 2025

目次

ストレージを管理します	1
ストレージを追加します	1
ストレージシステムを管理	3
Storage VM を変更します	3
Storage VM を削除します	4
設定されているストレージタイムアウトを変更します	5

ストレージを管理します

ストレージを追加します

VM をバックアップまたはリストアする前に、ストレージクラスタまたは Storage VM を追加する必要があります。ストレージを追加すると、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere が vCenter でバックアップとリストアの処理を認識して管理できるようになります。

- 使用する GUI

VMware vSphere Clientを使用してストレージを追加します。

- サイズの大きい LUN

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere 4.5 以降では、ASA アグリゲートで最大 128TB の大容量 LUN サイズのデータストアがサポートされます。大規模な LUN の場合、SnapCenter ではレイテンシを回避するためにシックプロビジョニング LUN のみがサポートされます。

- VMware の仮想ボリューム（VVOL）

最初にVVOLストレージシステムをONTAP tools for VMware vSphereに追加してから、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereに追加する必要があります。

詳細については、を参照してください "["VMware vSphere 用の ONTAP ツール"](#)

作業を開始する前に

ESXi サーバ、SnapCenter VMware プラグイン、および各 vCenter は、同時に同期する必要があります。ストレージを追加しようとしても、vCenter の時刻設定が同期されていないと、Java 証明書エラーが表示されて処理が失敗することがあります。

このタスクについて

SnapCenter VMware プラグインは、直接接続された Storage VM と Storage クラスタ内の Storage VM でバックアップおよびリストア処理を実行します。



SnapCenter VMware プラグインを使用してVMDK上のアプリケーションベースのバックアップをサポートしている場合は、SnapCenter のGUIを使用してストレージ認証の詳細を入力し、ストレージシステムを登録する必要があります。

- リンクモードの vCenter では、各 vCenter にストレージシステムを個別に追加する必要があります。
- SVMを追加する場合は、Storage VMの名前が管理LIFに解決される必要があります。

SnapCenterでStorage VM名の_etc/hosts_fileにエントリを追加した場合は、それらのエントリも仮想アプライアンスから解決できることを確認する必要があります。そうでない場合は、アプライアンス内の_etc/hosts_fileに同様のエントリを追加する必要があります。

管理 LIF に解決できない名前の Storage VM を追加すると、プラグインがその Storage VM 上のデータストアまたはボリュームを検出できないため、スケジュールされたバックアップジョブが失敗します。この

場合は、Storage VM を SnapCenter に追加して管理 LIF を指定するか、Storage VM を含むクラスタを追加してクラスタ管理 LIF を指定してください。

- ストレージ認証の詳細は、SnapCenter VMware プラグインの複数のインスタンス間、または Windows SnapCenter Server と vCenter の SnapCenter プラグイン間で共有されません。

手順

- vSphere クライアントの左側のナビゲーションペインで、*ストレージシステム*をクリックします。
- [ストレージシステム] ページで、*[追加]* オプションを選択します。
- Add Storage System * ウィザードで、次の表に示す基本的な Storage VM またはクラスタ情報を入力します。

フィールド名	操作
ストレージシステム	ストレージクラスタまたは Storage VM の FQDN または管理 LIF の IP アドレスを入力します。 SnapCenter VMware プラグインでは、異なるクラスタにある同じ名前の Storage VM は複数サポートされません。
認証方式	資格情報または証明書のいずれかを選択します。次の 2 種類の証明書がサポートされています。 - "CA署名証明書" - "自己署名証明書"
ユーザ名	このフィールドは、認証方法として資格情報を選択した場合に表示されます。Storage VM またはクラスタへのログオンに使用する ONTAP ユーザ名を入力してください。
パスワード	このフィールドは、認証方法として資格情報を選択した場合に表示されます。Storage VM またはクラスタのログインパスワードを入力してください。
証明書	このフィールドは、認証方法として証明書を選択すると表示されます。証明書ファイルを参照して選択します。
秘密鍵	このフィールドは、認証方法として証明書を選択すると表示されます。秘密鍵ファイルを参照して選択します。
プロトコル	ストレージプロトコルを選択します。
ポート	ストレージシステムが受け入れるポート。 -443 (HTTPS 接続用) -80 (HTTP 接続用)
タイムアウト	SnapCenter VMware プラグインが処理をタイムアウトするまで待機する秒数を入力します。デフォルトは 60 秒です
優先 IP	Storage VM に管理 IP アドレスが複数ある場合は、このボックスをオンにして、SnapCenter VMware プラグインで使用する IP アドレスを入力します。 * 注：* IP アドレスを入力するときは角かっこ () を使用しないでください。

フィールド名	操作
Event Management System (EMS ; イベント管理システム) およびAutoSupport の設定	保護適用、リストア処理の完了、または処理の失敗のために AutoSupport メッセージをストレージシステムに送信する場合は、該当するチェックボックスを選択します。 AutoSupport 通知を有効にするには、[失敗した操作に関するAutoSupport 通知をストレージ・システムに送信する*]チェックボックスと[SnapCenter サーバ・イベントをsyslogに記録する*]チェックボックスをオンにします。
SnapCenterサーバのイベントをログに記録します syslogに入力します	SnapCenter VMware プラグインのイベントをログに記録するチェックボックスをオンにします。
AutoSupport通知を送信します ストレージシステムへの処理に失敗しました	失敗したデータ保護ジョブに関する AutoSupport 通知を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。 また、Storage VM で AutoSupport を有効にし、AutoSupport E メールを設定する必要があります。

4. [追加 (Add)] をクリックします。

ストレージクラスタを追加すると、そのクラスタ内のすべての Storage VM が自動的に追加されます。自動的に追加された Storage VM (「暗黙的な」 Storage VM とも呼ばれます) は、クラスタのサマリーページに、ユーザ名ではなくハイフン (-) で表示されます。ユーザ名は、明示的なストレージエンティティに対してのみ表示されます。

ストレージシステムを管理

VMware vSphere Clientを使用してVMやデータストアをバックアップまたはリストアするには、ストレージを追加する必要があります。

Storage VM を変更します

VMware vSphere Clientを使用して、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereに登録されているクラスタおよびStorage VMの構成を変更し、VMのデータ保護処理に使用することができます。

クラスタの一部として自動的に追加された Storage VM (暗黙的な Storage VM とも呼ばれます) を変更すると、その Storage VM は明示的な Storage VM に変更され、そのクラスタ内の残りの Storage VM を変更することなく個別に削除できます。認証方法が証明書を通過している場合は、[Storage Systems]ページにユーザ名がN/Aと表示されます。ユーザ名は、クラスタリスト内の明示的なStorage VMに対してのみ表示され、ExplicitSVMフラグはtrueに設定されます。すべての Storage VM は、関連付けられたクラスタの下に常に表示されます。



SnapCenter の GUI を使用してアプリケーションベースのデータ保護処理用に Storage VM を追加した場合は、追加した Storage VM を変更するために同じ GUI を使用する必要があります。

手順

1. SCVプラグインの左側のNavigatorペインで、* Storage Systems *をクリックします。
2. [ストレージシステム]ページで、変更するStorage VMを選択し、*[編集]*を選択します。
3. [Edit Storage System*](ストレージ・システムの編集) ウィンドウで新しい値を入力し *[Update](アップデート) をクリックして変更を適用します

Edit Storage System ×

Storage System	sti104-vsimg-ucs555u-cm.ctl.gdl.englab.net[]
Platform	FAS
Authentication Method	<input checked="" type="radio"/> Credentials <input type="radio"/> Certificate
Username	admin
Password	Storage system password
Protocol	HTTPS
Port	443
Timeout	60 Seconds
<input type="checkbox"/> Preferred IP	Preferred IP

Event Management System(EMS) & AutoSupport Setting

Log Snapcenter server events to syslog
 Send AutoSupport Notification for failed operation to storage system

CANCEL UPDATE

ウィンドウ"]

Storage VM を削除します

VMware vSphere Clientを使用して、vCenterのインベントリからStorage VMを削除できます。



SnapCenter の GUI を使用してアプリケーションベースのデータ保護処理用に Storage VM を追加した場合は、追加した Storage VM を変更するために同じ GUI を使用する必要があります。

作業を開始する前に

Storage VM を削除する前に、Storage VM 内のすべてのデータストアをアンマウントする必要があります。

このタスクについて

削除する Storage VM に存在するバックアップがリソースグループに含まれていると、そのリソースグループのそれ以降のバックアップは失敗します。

手順

1. SCVプラグインの左側のNavigatorペインで、*** Storage Systems ***をクリックします。
2. [*** ストレージシステム ***] ページで、削除する Storage VM を選択し、**[* 削除]** をクリックします。
3. [ストレージ・システムの削除] 確認ボックスで [ストレージ・システムの削除 *] のチェックボックスをオンにし [はい *] をクリックして確定します
*注：ESXi 7.0U1以降のリリースのみがサポートされます。

"[VMware vSphere Client Serviceを再起動します](#)"。

設定されているストレージタイムアウトを変更します

以前にバックアップが正常に実行されていたとしても、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere がストレージシステムの待機時間が設定されたタイムアウト時間を超えると、バックアップが失敗することがあります。この状況が発生した場合は、設定されているタイムアウト値を大きくすることができます。

このエラーが発生する可能性があります `Unable to discover resources on SCV: Unable to get storage details for datastore <xxx>...`

手順

1. VMware vSphereクライアントで、***ストレージシステム***をクリックします。
2. Storage Systems (ストレージ・システム) ページで、変更するストレージ・システムを選択し、*** Edit (編集) *** をクリックします。
3. [タイムアウト] フィールドで、秒数を増やします。



大規模な環境では 180 秒を推奨します。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。